11月

美園小だより

令和8年10月30日
さいたま市立美園小学校
第198号 児童数1035名
Tel 048(812)6611
Fax 048(878)6660

自分にできること

校　長　　河野　秀樹


〈濱口梧陵君紀徳碑〉

11月に防災庁が発足します。また11月5日は「津波防災の日」「世界津波の日」です。今から170年程前の11月5日、安政の南海地震による津波の際に、浜口儀兵衛（梧陵）が稲むらに火を付けて、津波から逃げ遅れた村人を高台に導いて、多くの命を救った話にちなんでいます。この事実をもとに小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）が物語「A living God」（「生ける神」）を作りました。それが教材としてまとめられ、5年生の道徳の教材に「津波！命を救った稲むらの火」として取り上げられています。子どもたちは「今日は命について学びました。教科書は自然災害のことだけど、命は一つしかないので、事故や事件に巻き込まれても災害でも、今日考えたことを生かして自分にできることをどんどん行動したい」などと、振り返っていました。

子どもたちの学びに刺激されて、私も梧陵が当主を務めていた銚子にあるヤマサ醤油を訪ねたり、関連する書籍を読んだりしました。すると、梧陵について多くのことを学ぶことができました。

「稲むらに火」の後、村人たちは大津波で住む家や舟、漁業などの仕事を失い、田畑も塩水につかって作物が作れない状態になり、生きる希望を失いかけていました。梧陵の業績は、人々の役に立つことを積極的に行ったことでした。①被災された地域を昼夜見張らせる。②蔵の玄米を分け与え、炊き出しをする。③農民には鍬・鋤・鎌などを作らせて与え、漁師には舟や網を与える。④仮設の家を建てる。⑤村を守る仕組みを作る。⑥橋を工事する。⑦仕事を失った人々に仕事を与え、約4年をかけて堤防をつくるなどです。これらの費用約4,666両（現在の約5億円）は、すべて梧陵が負担しました。堤防工事では塩をかぶった農地を用地とすることと、農地にかけられていた年貢の負担を軽くすることも考えており、後に勝海舟は「一挙両得の計なり」と評価します。梧陵は海舟とも交友があり、銚子にある碑の題字は海舟の書によるものだそうです。また、この堤防は広村堤防と呼ばれ、完成から88年後の昭和の南海地震による津波でも波を防ぎ、被害は最小限におさえられました。

日本は自然災害が多く、近年は激甚化しています。だからこそ、過去の災害から学んだ知恵について理解し、事前に備えておくことが大切です。自助・共助・公助と言われますが、子どもたちには何よりも命を最優先し、自分の命は自分で守ること、地域の一員としてできることを考えて行動していってほしいです。11月7日（土）の午前に、本校で避難所運営訓練が行われます。自治会を中心に行いますが、子どもたちの積極的な参加や見学を待っています。

主な参考図書：「稲むらの火の男」中島　望　講談社、「11・5津波救国〈稲むらの火〉浜口梧陵伝」木下英治　講談社　等